

各関係機関長様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報第3号について（送付）
このことについて、発生予察特殊報第3号を発表しましたので送付します。

平成16年度病害虫発生予察特殊報第3号

平成17年1月17日
熊本県病害虫防除所長

1 病害虫名：キュウリ黄化えそ病

2 発生作物：キュウリ

3 病原ウイルス：メロン黄化えそウイルス
(Melon yellow spot virus: MYSV)

4 発生確認の経過

平成16年11月上旬、鹿本郡のキュウリ（品種：アルファー、アルファー節成）で葉脈間が退緑している株が発生した。熊本県農業研究センターにおいてRT-PCR法によるウイルス検定を行ったところMYSVが検出された。さらに九州沖縄農業研究センターに同定を依頼したところ、MYSVによるキュウリ黄化えそ病であることが判明し、本県での発生を初めて確認した。また、平成17年1月中旬に熊本市のキュウリ（品種：エクセレント2号）でも葉が葉脈透化や黄化している株が発生し、熊本県農業研究センターにおいてウイルス検定を行った結果、MYSVが検出された。

5 MYSVの宿主範囲

ウリ科：キュウリ、メロン、スイカ、トウガン、ユウガオ、ヘチマ、ニガウリ

ナス科：ペチュニア

ゴマ科：ゴマ

アカザ科：ハウレンソウ

ツルナ科：ツルナ

ゴマノハグサ科：キンギョソウ、トレニア

は自然感染が確認されている植物

6 主な感染植物での病徴

キュウリ：葉では、はじめ葉脈透化症状が現れ、その後、モザイクを生じたり、退緑あるいは黄化し、えそ斑点を生じたりする（写真、参照）。また感染株は生育が悪くなるため枯死する場合もある。果実ではほとんど症状はみられないが、果実表面にモザイク斑を生じることがある。

メロン：葉では、はじめ葉脈に沿って黄化し、退緑斑点が多数生じる。その後えそ斑点となり、葉全体は黄化する。果実では、モザイクが発生し、また肥大停止、ネット形成異常となる。また果肉には淡褐色の斑点が発生する。

スイカ：葉では、不鮮明なえそや日にかざすと黄色に縁取られた褐色の小斑点が多数生じる。果実は、小型化し、表面が波打ったような奇形となる。また果皮の表面及び内部にえそを生じる。

7 伝染方法

本ウイルスはミナミキイロアザミウマによって媒介されるが、他のアザミウマ類（ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ）で媒介される可能性もある。幼虫時に感染株を吸汁することでウイルスを保毒し、一生ウイルス伝搬能力を持つが、経卵伝染はしない。汁液伝染はほとんどしないため、作業管理で伝染する可能性は低い。なお、種子伝染、土壌伝染はしない。

8 MYSVによる病害の発生状況

平成4年に静岡県の実で初めて発生し、平成8年には高知県でキュウリおよびメロンで発生が確認された。その後、キュウリでは、平成12年に愛媛県、平成14年に群馬県、平成15年に神奈川県、福岡県、平成16年に三重県、平成17年に佐賀県で発生が確認された。また平成15年には高知県のスイカでも確認された。

9 防除対策

- (1) 発病株は伝染源となるので、直ちに抜き取りほ場外に持ち出し埋没処分するか、ビニール袋等に入れて完全に枯れるまで密封処理する。
- (2) 施設栽培では施設開口部に防虫ネットを設置し、アザミウマ類の侵入を抑制する。
- (3) 青色粘着トラップを施設内に設置し、媒介虫の早期発見に努める。
- (4) アザミウマ類の薬剤防除は発生初期から行い、薬剤抵抗性の発達を避けるためローテーション使用する。（注意：農薬使用にあたっては、使用方法、使用時期、総使用回数等を確認する。）
- (5) ほ場周辺及び内部の雑草は、媒介虫の生息・増殖場所となるので、除草する。
- (6) 施設栽培では、栽培終了時はハウスを密閉処理を行ってから片づけ、アザミウマ類が施設外に飛び出さないようにする。
- (7) 疑わしい症状が発生している場合は、病害虫防除所、各農業改良普及センターに連絡する。



写真：葉脈が透化している葉



写真：退緑、黄化し、えそ斑がみられる葉

特殊報は、病害虫防除所のホームページ（<http://www.jpnpn.ne.jp/kumamoto>）に公開している（カラー写真使用）。